



ポロニアは県花「桐」の学名です。

発行 岩手県高等学校PTA連合会
[事務局] 盛岡市上田三丁目2-1 TEL (019) 625-6386
E-mail iwa-koupren@aroma.ocn.ne.jp FAX (019) 613-7795
http://iwateken-koupren.org/

第71回東北地区高P連盛岡大会開催

えん～^{こた}応えよう、^{たす}援けよう、^{あつ}団まろう！子どもたちの未来のために～



▲本大会の会長を務めた大柏良氏

開会行事次第

◇オープニング

なぎなた演舞
盛岡第二高等学校なぎなた部

1. 開会のことば

大会実行委員長

志田 順悦

2. あいさつ

大会会長 大柏 良
(一社)全国高等学校PTA連合会
会長 山田 博章

3. 来賓祝辞

岩手県知事 達増 拓也
盛岡市長(代理 副市長)
中村 一郎

4. 来賓紹介

5. 表彰等

6. 東北地区高P連役員紹介

7. 閉会のことば

大会実行副委員長

道地 勇

7月1日に盛岡市民文化ホールで行われた第71回東北地区高等学校PTA連合会盛岡大会は、実に3年ぶりの開催となりました。当日は東北6県から先生方や保護者、PTA役員など県内から375人、東北全体では766人が出席。久しぶりに対面できる喜びを噛み締めながら学びを深めるとともに、本大会のテーマである「えん～応えよう、援けよう、団まろう！子どもたちの未来のために～」の通り、新たな縁をつなぎ、今できることを考える貴重な機会となりました。

開会に先立ち、本大会の会長を務める岩手県高等学校PTA連合会の大柏良会長は、東日本大震災における自身の経験をふまえて「人とのつながりが人間を変えます。今日という一日の中で、皆さんの心に残る何かがあれば嬉しいです」と挨拶を述べました。今年度から全国高等学校PTA連合会の会長となった山田博章氏は、「多様化する時代に順応し、持続可能な活動をしていくことが必要です」と語りました。また来賓を代表して、達増拓也岩手県知事と谷藤裕明盛岡市長(代理)として中村一郎副市長が出席。より祝辞が寄せられました。表彰状および感謝状は、各県においてPTAの発展や活動の充実、子どもたちの健全育成などに尽力した42名の方々に贈呈されました。東北地区高等学校PTA連合会広報誌「リンクール」においては、宮城県気仙沼高等学校と秋田公立美術大学附属高等学校が、それぞれ最優秀賞を受賞。謝辞は、全ての受賞者と

受賞校を代表して、東北地区高等学校PTA連合会の田名部智之前会長が述べました。今年の研究協議では、「新しい生活様式における持続可能なPTA活動とは」と題し、各県の代表者6名によるパネルディスカッションを実施。コーディネーターは東北地区高等学校PTA連合会の顧問である清水成樹氏が務め、コロナ禍における各県の取り組みについて語り合いました。

新型コロナウイルス感染症の流行以降、PTA活動はもちろん、学校行事や日常生活において、さまざまな行動制限が課されました。できることを模索する状況は今も続いており、各県が頭を悩ませながら行ってきた数々の事例は、どれも参考になるものばかりです。どんな状況でも、できることは必ずあるということを変更して実感し、パネルディスカッションは終了となりました。

また記念講演においては、1902年に二戸市で創業した日本酒の蔵元、南部美人の5代目である久慈浩介氏を招聘。同社の歴史やさまざまな功績を振り返るとともに、コロナ禍での起死回生ともいえるべき取り組みや、久慈氏ならではの視点で会社の未来を切り開いてきた軌跡について講演していただきました。

南部美人は、コーシヤというユダヤ教徒が食べても良い食品として認定されているほか、2019年には世界で初めて日本酒のビーガン国際認定も取得し



▲全国高P連の山田博章会長



▲代表して表彰状を受け取る松田恵子氏

ました。さらに2020年1月には、二戸市内にある2社とともに、同市や岩手県などと連携した「フードダイバーシティ(食の多様性)宣言」を実施。今後は食物アレルギーを持つ子どもたちが、ほかの子と同じテーブルで同じメニューを食べることのできる「ワンテーブル」も計画しています。日本の伝統である日本酒を作り続けてきた蔵元の飽くなき挑戦に、参加者は真剣な表情で耳を傾けていました。

これ以外に本大会では、高校生が日頃の成果を發揮する場を、映像とステージ発表という形で設けました。コロナ禍においては部活動を行うことが難しく、発表の機会が非常に限られてしまった子どもたち。そんな彼らが自らの力を發揮して精一杯輝く姿に、会場からは惜しめない拍手が送られました。

最後に、次回の開催地である福島県より、本大会への感謝と次回への意気込みが語られ、閉会となりました。終了後は会場の外で記念撮影を行う姿が多く見られ、多くの「えん」が新たに生まれたこと、そしてその「えん」が、確かに未来へとつながっていくように感じられました。

来賓芳名

岩手県知事 達増 拓也
盛岡市長 谷藤 裕明
岩手県教育委員会 教育長 佐藤 博
盛岡市教育委員会 教育長 多田 英史
岩手県高等学校長協会 会長 梅津久仁宏
(一社)岩手県PTA連合会 会長 岩館 智子

祝辞

岩手県知事 達増拓也



高校生の力は地域にとっても大変大きく、彼らの学ぶ姿や課外活動での活躍が、東日本大震災からの復興の希望になっていきます。そのような

可能性に満ち、それだけに傷つきやすい所もある高校生を育てるのは並大抵のことではなく、PTA活動に関わる皆さまには、心から敬意を表し感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の流行は、生命や生活、経済、文化など、社会全体に大きな影響を与え、教育現場や家庭に求められる負担は非常に大きいものがあ

祝辞

盛岡市長代理 副市長 中村 一郎



盛岡市民を代表し、東北各地からお集まりいただきましたPTA関係者の皆さまを心から歓迎申し上げます。日頃の熱心な活動に敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症により、子どもたちをはじめ私たちの生活に大きな影響が生じておりますが、そうした中で本大会が開催されますことは、誠に意義深いものであると存じております。

盛岡市は岩手山や姫神山などの秀峰を望み、秋には鮭も上る清流、北上川や中津川、雫石川などが市内を悠々と流れて

ります。だからこそ学校と家庭、地域が連携、協働することが、ますます重要になっていきます。

岩手県では岩手県民計画において、引き続き復興に取り組みながら「幸福を守り育てる希望郷いわて」を基本目標に掲げ、教育や子育て、コミュニティなど、各分野の施策を進めております。

本日、東北各地から皆様をお迎えし、研究協議や情報交換が行われますことが、非常に有り難いことであり、誠に意義深いものと感じております。今大会の成果を今後のPTA活動の充実に、大いに役立てていただきますようご期待申し上げます。

いる「杜と水の都」でもあります。皆さまには本市の美しい街並みや自然、文化歴史に触れていただきながら交流を深めていただければ幸いです。ぜひ、それぞれの郷土の未来を担う子どもたちの健全育成のために、PTA活動を通じて希望に満ちた未来へと導いてくださるようお願い申し上げます。結びに、大会開催に当たりましてご尽力いただきました関係者の皆様に、深く感謝を申し上げますとともに、ご参加の皆さまのますますのご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

受賞者代表 謝辞



八戸工業大学第一高校 田名部 智之

PTA活動をする上で、この3年間は非常に厳しく苦しい思いをして参りました。特に本日受賞された皆さんは、我慢の2年間だったのではないかと思っております。

第69回の秋田大会、そして第70回の青森大会をリアルで開催できなかったというこの思いを、今年、盛岡において大柏会長がご決断、実行なされました。こうして東北大会を開かれましたこと、本当に嬉しく感謝しております。ありがとうございます。

昨今はPTA不要論まで飛び出す大変な状況の中、私たちは広報誌を作り、単位PTAを運営してきた同志であります。感謝状をいただいて終了ということではなく、単位PTA、そして子どもたちが元気に活躍できるよう、これからも応援していくことをお誓い申し上げます。すでにご卒業された先輩方もいらっしやると思いますが、長く続けていけるのもPTAの良さだと思っておりますので、これからも一緒に頑張つて参りましょう。ありがとうございます。

令和4年度 第71回東北地区高P連盛岡大会 受賞者

〈表彰状〉敬称略 岩手県立遠野高等学校

松田 恵市

〈感謝状〉 岩手県立大船渡東高等学校

海山 忠

岩手県立宮古高等学校

小林 康弘

岩手県立伊保内高等学校

道地 勇

岩手県立盛岡北高等学校

志田 順悦

令和3年度 第26回東北地区広報紙コンクール

〈優秀賞〉

岩手県立黒沢尻北高等学校

〔黒陵 Vol.140〕

岩手県立盛岡北高等学校

〔MORIKITA 創刊号〕

〈優良賞〉

岩手県立前沢明峰支援学校

〔ひだまり 第148号〕

※令和3年度東北地区コンクールの表彰も盛岡大会において行われました。 ※右記の3作品は岩手県高P連ホームページにてご覧いただけます。

研究協

新しい生活様式における 持続可能なPTA活動とは

研究協議ではコーディネーターを東北地区高P連顧問の清水成樹氏が担当し、パネリストは須藤久輝氏（五所川原第一高校PTA会長）、尾形直也氏（宮城県石巻工業高校PTA会長）、原正幸氏（福島県高等学校PTA連合会会長）、坂本健太郎氏（山形県立新庄北高校PTA会長）、湊屋啓二氏（秋田県高等学校PTA連合会前会長）、大柏良（岩手県高等学校PTA連合会会長）の6名が務めました。

協議の中心となったのは、コロナ禍におけるPTA活動についてです。各県とも書面会議を取り入れたり、総会や研修会はオンラインで開催するなど、限られた中での活動は苦渋を極めました。しかし一方で、これまでの活動を見直す機会になったという声もあります。オンラインに切り替えたことで参加率が上がり、100人規模での会議も可能になった地域もありました。



▲コーディネーターの清水成樹氏



▲各県を代表するパネリスト

また持続可能なPTA活動を行うにあたり、教職員の働き方改革への考慮も挙げられました。地域の力を借りることで教職員の負担を軽減するだけでなく、子どもたちの学びをより深めることができる。こうした取り組みを長年続けている事例もあり、コロナ禍においてもオンラインに切り替えて継続し、参加者は年々増加していると報告がありました。

さらに従来のPTA活動を、小規模校や進学校、商業高校などの特色ごとに集まり、意見交換する場があると良いのではないかと、という提案もありました。ほかのパネリストからも賛同の声が上がっており、PTA活動のさらなる発展に向けた展望が語られました。

まとめとして清水氏が、「PTAは生徒を支えるツールだと考え、地域や時代に合わせて変化していったほしい。それが持続可能なPTA活動につながると思います」と述べ、終了しました。

記念講演

「南部美人の挑戦」

～地域を照らす光になるために～



▲株式会社南部美人
五代目蔵元 久慈浩介氏

ある「誰も取り残さない」を実現していきたいと考えています。

2013年にはユダヤ教の食事規定を満たすコーシヤの認定をいただいたほか、2019年には日本酒として世界初となるビーガンの国際認定も取得。お酒の世界一を決める「インターナショナルワインチャレンジ2017」においてはチャンピオンを獲得し、今では世界55カ国に南部美人を輸出しています。

2020年には地元企業や二戸市とともに、世界で初めての「フードバイバーシティ宣言」を行い、街を挙げて食の多様性に取り組んでいるところ。世界では信念や宗教上の理由で食に禁忌を持つ人が、人口全体の40%に上ると言われています。一方、日本ではそういった禁忌を持つ人が少なく、食の多様性に対する意識が高いとは言えません。私たちは食の観点から、SDGsの大きな目標でも

またコロナ禍の取り組みとして、消毒用アルコールの製造がありま。通常、蔵元が高濃度の消毒用アルコールを販売することは酒税法違反に当たります。しかし感染症の流行以降、消毒用アルコールの供給が追いつかなくなり、特例で私たち蔵元にも製造と販売の許可が下りたのです。私たちはさまざま消毒用アルコールを作り、以前から相談を受けていた地元医師会や医療的ケア児に届けました。これは南部美人だけでなく、全国の蔵元でも一斉にコスト度外視で消毒用アルコールが作られました。今、世界が求めているのは会社の規模ではなく、オンリーワンの価値です。その価値がどれだけ高いかで、選ばれる存在になることができる。このことは子どもたちが未来を生きる上でも、大きなヒントになるのではないのでしょうか。酒蔵は地域の伝統と文化を守るだけでなく、社会貢献もできる地域愛に満ちた存在です。ぜひ皆さんの街にある酒蔵を愛して、活用してください。そしてみんなで一緒に地域を盛り上げていきましょう。

高校生も活躍！

大会当日は、岩手県内の6つの部活動が映像やステージ発表で応援し、盛り上げてくれました。

応援メッセージ映像



▲今年125周年を迎えた盛岡第二高校応援委員会



▲パカスタイルを継承する花巻北高校応援団

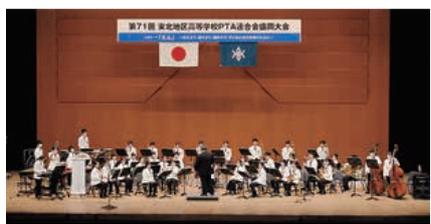


▲10名で活動する不来方高校チアダンスサークル

ステージ発表



▲凛とした演技が光る盛岡第二高校なぎなた部



▲ヒット曲で会場を盛り上げた盛岡第一高校吹奏楽部



▲街の伝統を受け継ぐ盛岡商業高校盛商さんさ実行委員会

令和5年度は 福島にて開催！

本大会の最後に、次回の開催地である福島県より挨拶がありました。

福島県高P連の原正幸会長は、福島県大会実行委員のメンバーや福島市観光PRキャラクター「もりん」とともに登壇。「今年の素晴らしい盛岡大会に負けないよう、福島県高P連一同、頑張っていきたいと思えます」と述べました。

開催場所として予定されているのは、福島の奥座敷と呼ばれる飯坂町。JR福島駅から私鉄電車に乗り換えて、およそ25分の場所にあります。飯坂温泉は国内有数の古湯として知られており、松尾芭蕉や正岡子規、ヘレン・ケラーなども訪れたことがあると伝えられています。また福島県の名物で、小ぶりの餃子がぎゅっしりと円盤状に並べられた「円盤餃子」の名店も軒を連ねています。

同大会実行委員のメンバーは、「来年の大会がより良い研究や交流の場となること、そして皆さまに美味しい食や豊かな文化を通して、福島県の魅力を感じていただけるよう頑張ってください」と、意気込みを語りました。



▲福島大会実行委員のメンバー

東北大会盛岡大会個人表彰を受けて

東北大会
個人表彰
感謝状

遠野高等学校前PTA会長

松田 恵市



遠野高校が創立120周年を迎え、更なる歩みを進める節目の年に、このような輝かしい賞を頂戴しましたことを心より感謝申し上げます。

受賞の喜びと、思うような活動ができなかったという悔しい気持ち、が交錯しておりますが、今回の受賞は諸先輩方をはじめこれまでPTAに携わった多くの方々の御尽力の賜物であり、これまでの継続的かつ特徴的な活動が認められ評価されたものと受け止めております。例年であれば、様々な活動を積極的に進め、生徒たちの歩みに合わせ共に活動して参りま

したが、このコロナ禍において、そのような機会を多く失ってしまったことは大変残念です。県下の同志の皆様におかれましても、PTA

Aの存在意義について改めて考えながら苦難の時を過ごされているのではと思います。このような状況下だからこそ、私たちは生徒たちの日々の学校生活と彼らの背中を親としてしっかりと支えていくことを続けていかなければなりません。

コロナウィルス収束の折には再び活気のあるPTA活動を復活させられるよう、今できる取り組みを紡ぎ続けながら力を蓄え、地道に活動を繋いで欲しいと願っております。

結びとなりますが、県内各校PTAのご発展と会員の皆様のご活躍を心より御祈念申し上げます、受賞の挨拶と致します。この度は誠にありがとうございました。

子どもたちの「えん」に感謝

東北大会
感謝状

盛岡北高等学校前PTA会長

志田 順悦



この度は東北地区高P連会長表彰感謝状をいただき誠にありがとうございました。

3年間の高校PTA活動でしたが、最後の2年間はコロナ禍に直面。未曾有の混乱の中、PTAの財産である人と人とのつながりを守り、新しい時代にふさわしい活動のあり方を必ず見出そうと決意し、東北Pや県P、単Pの活動の場で、思いを同じくする仲間と共に様々な新しい取り組みを具体化しました。東北Pでは第71回東北地区高P連盛岡大会に実行委員長として携わり、大会を通じて「P

TAの「えん」の大切さ」を多くの皆様にお伝えしました。また県Pでは調査広報委員長として県や東北のPTA広報紙コンクールに携わり、本県の広報紙の素晴らしさを確かめ内外に広くお報せしました。そして盛岡北高Pでは、会長として、「新しい時代」に仲間と共に懸命に向き合い、「集まれなれば心でつながる」をモットーに広報紙の刷新や新たな情報発信事業を展開しました。

こうして貴重な経験を積むことができたのは、何よりも息子をはじめ多くの子どもたちとの「えん」のおかげ。心から感謝しています。子どもたちみんなの未来が笑顔いっぱいになるよう、これからもしっかりと支えていきたいと思えます。

我ら応援団員

東北大会
感謝状

宮古高等学校前PTA会長

小林 康弘



この度は、東北地区高P連会長表彰感謝状を頂き、誠にありがとうございます。

これまで、PTA活動にご協力を頂いた方々に心より感謝申し上げます。

令和2年度からの2年間、宮古高等学校でPTA会長を務め令和3年度には、岩手県高P連副会長、健全育成委員会の委員長を仰せつかり過分な役職で皆様には大変迷惑をおかけしたと思っております。健全育成委員会の活動では、令和3年度11月に、東北高P連健全育成委員会を開催することができました。新型コロナウイルス感染者数が少ない絶好のタイミングで情報交換・意見交換を行う貴重な機会を得ることができました。また、会議後に懇親の

いやあ、まだまだ暑苦しいぞ！高校生は。7月に盛岡で開催したPTA東北大会のために、3つの高校を訪ねた。この大会のテーマは「えん」。円であり、援である。部活動などもあることながら、他の高校生を応援する、いわゆる応援団的立場の生徒たちも、コロナ禍でその活躍の場を失った、彼らを応援したい...という大会実行委員長の発案で、応援団を事前に撮影し、大会当日に上映することにした。生業が映像制作であるので、私が撮影&編集を担当。出会った子どもたちは、熱かった。みんな熱かった。中でも熱さを感じたのは、あるバンカラ応援団の団長。花巻の高校で旗を振り、歌い、鼓舞する。好奇の目。時代遅れとの声。減



東北大会を終えて
岩手県高等学校PTA連合会会長 大柏 良

る団員。「自分の代で伝統ある団を閉じざるを得ないかもしれない」と悩みつづ、語ってくれた思いなせ、応援する？の答えは「応援する気持ちは、心の奥から自然と湧き上がってくるもの」。そんな思いで、弊衣破帽と下駄通学を貫き、努めて人前では表面を作り、ひたすら応援に声を枯らしてきた。ううう。熱いよ...。ちょっと後悔の思いももっていたが、いい！生き急げ、18歳！全力でやって、全力で後悔しろ！彼らを見て、自分もまだ何者かになれるのでは...と思つた53歳、自分も負けずに生き急ごう...。県内全てのPTA関係の皆様には御礼を申し上げます。皆様のおかげで大会もつが、なく行われ、とても大切な気付きの場となったことに...。

心から感謝

楽しかった見守り

盛岡第二高等学校 なぎなた部
父母会長 丸山 裕美

寒い武道場での練習の中、慣れない動きで足の裏の皮がはがれても、新型コロナの影響で多くのイベントや練習会が中止になつても、いつも明るく前向きに部活動に取り組んでいた1年生の頃。新年度を迎えて先輩ができ、試合の技術面だけでなく、先輩としての行動や人とのかわり方で悩みながらも大きく成長した2年生の頃。そんな多くの努力をしながら仲間を信じ支え合うことのできる3年生となり、インターハイ出場という大きな目標まで到達してくれました。

開催地の香川県へは、3年生7名全員そろって参加予定でしたが、残念ながら全員では参加できず、団体戦のみの出場になりました。メンタル面が心配でしたが、試



合会場で見えた彼女たちは、大会に來られなかつた選手の分も最大限の力を発揮しようとする気迫でいっぱいでした。結果として団体戦の予選通過は叶いませんでしたが、予選での一勝は、先輩方や後輩たちに恥ずかしくない見事な試合内容でした。日々、部活動を楽しんでいる子どもたちを、私たち父母会も楽しく見守らせていただきました。ほとんどの選手が初心者で入部し、ゼロからスタートしたなぎなたですが、常にサポートしてくださる先生と指導者の皆様のおかげで、高校三年間を通して規律を守る立派な競技者になることができました。心より感謝申し上げます。これから進む道で、なぎなたで培った経験を活かしてくれることを願っています。また、盛岡二高なぎなた部の今後の活躍も期待しております。



岩手の部活動を支えるPTA

大会アトラクション出演校



盛商の伝統に触れて

盛岡商業高等学校 盛商さんさ実行委員会
父母会長 多田 真由美

私が、さんさ踊りに関わるきっかけとなったのは、娘が盛岡商業高等学校で盛商さんさ実行委員会に入ったことです。私自身も、高校生時代にさんさ踊りをやっていたこともあり、何か力になれないかと考えておりました。

委員会の活動の中で、新型コロナウィルスの感染が拡大していた中でも、外部へ発表する機会がありました。岩手県の大イベントである、盛岡さんさ踊りパレードには出場することができず、委員会の皆もここ2年間は悔しい思いをし

てきました。また、3年生は、このまま出場できないまま終わってしまうのかと、残念な気持ちでございました。ですが今年度は、新型コロナウィルスに対する県の規制も緩和され、盛岡さんさ踊りパレードの開催が決まり、出場できると聞き、普段の練習により一層身が入っていたように感じました。パレード本番では、本人達も話しておりましたが、今までで一番の演技で大変感動しました。



「輝く未来への礎」

「親から始める新時代の教育」

8月25日(木)・26日(金)
「会場」金沢市いしかわ総合スポーツセンター



▲高P連大柏会長と梅津久仁宏顧問

はいずれも示唆に富んだ内容で大変参考になりました。

第2日は、小松明峰高校吹奏楽部による演奏から始まり、全体会では「やりたいことをやる」という演題で、ファミリーマートの顧問の澤田貴司氏による記念講演が行われました。昔のバリバリの商社マンの勝ち組によるイケイケで元気の出る話でした。

最後の閉会式では、時期開催地である宮城県からプロモーションビデオの上映と町田会長から皆様にご案内の挨拶をしました。
(高P連事務局)

石川大会は、3年ぶりにリアルでの開催となり、時折雨が混じるどんよりとした天気の中、全国各地から約5千人の会員が集まり熱気溢れる研修が行われました。岩手県からの参加者数は110名でした。

第1日は、遊学館高校のバントントワリング部によるアトラクションから始まり、続く開会式では大柏会長は全国高P連役員のためステージ上でした。表彰式では、住田高校が文部科学大臣表彰を、花泉高校と宮古高校が全国大会会長表彰を受賞されました。

その後、第1分科会に参加しました。テーマは「新時代の家庭教育」で、伸ばすべき本当に必要な力として、慶応義塾大学教授中室牧子氏による「教育に科学的根拠を」と題した講演Iと花まる学習会代表高濱正伸氏による「思春期の親だからできること」と題した講演IIを伺い、その後会場からの質問に答える形で進行了ました。講演内容



▲石川大会開会式

子どもたちのために、今までもそしてこれからも

全国大会
団体表彰

花泉高等学校PTA会長

関 健一



この度、花泉高等学校PTAは全国大会表彰(団体表彰)を頂くことができました。表彰に際し、生徒の学習活動をはじめとした教育活動の振興並びに教育環境の整備拡充に「貫して尽力して」こられた諸先輩方そしてPTAに携わった多くの皆様に感謝と御礼を申し上げます。

さて、ここ数年大きな被害と影響を与えてきた新型コロナウイルス感染症ですが、徐々に制限が緩和され、少しずつではありますが、PTA活動や各学校の行事、部活動の大会も実施できるようになってきました。以前は、普通に行われていた様々な行事ですが、感染対策のために我慢を強いられたいは子と私たちにとって行事や大会に参加できるというのは、大変嬉しく思えたことでしょう。そして、子どもたちの生懸命に取り組む姿や、笑顔を見ることができ、親として



▲環境整備



▲プランターづくり



▲声掛け運動

も喜びを感じました。改めて当たり前の事ができる喜び、大切さを痛感させられました。またまた普段通りの生活とはいきませんが、学校や家庭がそれぞれの役割と責任を果たし、そして会員の皆様方の御理解と御協力を得ながら、子どもたちが楽しくそして充実した高校生活を送れることができるように、より良い教育環境づくりに努めていきたいと思っております。

「無理せず、できる範囲で協力しましょう」を合言葉に。

文部科学大臣
表彰受賞

住田高等学校PTA会長

佐藤 邦生



本校PTAの設立は昭和27年であり、今年度で71年目となります。この度、第71回全国高等学校PTA連合会石川大会にて、輝かしい賞を頂くことができました。これまでもPTA活動を進め、支

えてきた歴代会員と多くの関係各位に心から感謝申し上げます。

本校のPTA役員は、入学年次毎に地区割をして互選する方式を採りながら、活動してきました。年3回のPTA理事会を開催し、学校行事の支援・連携を確認したうえで、協力体制が定まるよう調整を行ってまいりました。毎年、親子で受講する開校記念講演会と同時開催のPTA総会(登校時)・マナーアップ運動)の継続的参加協力。また、年2回発行のPTA会報を通じて、情報公開・広報活動を行っております。加えて



▲親子で受講する開校記念講演会2(令和4年度)



▲PTA総会(令和4年度)



▲親子で受講する開校記念講演会1(令和4年度)

住田町PTA連合会に所属し、町内の異校種団体との情報交換を行う「連携」をも図っています。

ここ3年間はコロナ禍により、PTA活動も思うように展開することができず、歯痒い思いが続いております。しかしながら、全校生徒数に比例してPTA会員の少ない小規模校とはいえ、今後も「無理せず、できる範囲で協力しましょう」を合言葉に、PTA活動に取り組んで参ります。



▲会場の様子

第32回 会長研修会

令和4年10月21日(金)
[会場] ホテルメトロポリタン盛岡本館

する子どもたちへ声がけをする「ひとこえ運動」は屋外での活動ということから今年も継続して行われました。また今年度はこれまでの活動が評価され、全国高P連からの表彰も受けています。

司会の盛岡第二高校村上智加子PTA会長が両校への質問を受け付けると、参加者から次々と手が挙がり、各校とも同じ悩みを抱えていることが伺えました。最後に県生涯学習推進センターの外館所長が「継続することの重要性」について語り、県高P連大柏良会長からは「会議などをオンライン開催すると参加者が増える可能性がある」と、助言がありました。

令和4年度岩手県高P連第32回会長研修会は、10月21日にホテルメトロポリタン盛岡にて開催。県内65校のPTA会長または副会長が出席し、活動事例や講演会、意見交換などが行われました。

研究協議Ⅰでは、黒沢尻北高校の太田宣承PTA会長と、宮古高校の中野昇二PTA会長がそれぞれ登壇し、学校の歴史や特徴、現在の取り組みなどを発表しました。黒沢尻北高校は令和6年度に創立100周年を控えており、周年事業として「東大励志(とうだいいし)」プロジェクトをスタートしました。これは同校の卒業生であり、人気漫画「ドラゴン桜」の作者である三田紀房氏を招き、東大を希望する生徒なら成績に関わらず誰でも参加できるというものです。太田会長は「PTAとしても、この取り組みを支えていきたい」と語りました。

来年度に創立100周年を迎える宮古高校は、コロナ禍で思うように準備が進まないという課題を抱えながらも、役員会の参加人数を制限したり、メールなどを活用したりして対応しています。登校

講演会は、講師に元朝日新聞社盛岡総局長の木瀬公二氏を招き「法律の由来になるな 考える楽しさ」と題して開催。同氏は、ルールはあくまでも人が幸せに暮らすためにあるべきで、震災などの非常時においては臨機応変に対応することが必要だと語りました。

また学校現場においても、子どもたちのためではなく、先生が自分たちのため学校のためにしていることが多いのではないかとし、PTAが学校に対して「私たちは、こういう教育を子どもたちにしてほしいんだ」と、声を上げ続けることの大切さを伝えました。

その後、研究協議Ⅱにおいては、第71回東北地区高P連盛岡大会の中間決算報告をしたほか、「母親委員会の名称および委員会規程について」という話題提供がありました。「母親委員会を継続するか」「名称は変更するべきか」などについ

て、挙手により意見を集約。事務局からは、今後もアンケートなどを含めて意見を交わし、議論を重ねた上で決定したいという意向が伝えられました。最後に、県高P連大柏会長が「母親委員会については非常に大事なことでと思っている。これから皆さんのご意見を広くいただいきたい」と挨拶し、閉会となりました。



▲講演会：木瀬公二氏
(元朝日新聞社盛岡総局長)

岩手県教育表彰を受けて



花巻南高等学校
PTA会長
館澤 友広

この度は、本年度の岩手県教育表彰を頂ける事となり、大変に嬉しく思いますと同時にこれまで本校PTA活動にご尽力いただいた皆様方のお陰であると思っております。この場をお借りして感謝申し上げます。

昨年は本校創立100周年と節目の年でありました。周年行事も予定してましたが、このコロナ禍の中で内容も大きく変更せざるを得ない状況の中で、ビリギヤルこと小林さやか氏の講演会を会員向けに動画配信したりと工夫をしながらも開催できたことは、

今後の活動の一つのヒントになりえるものであったと思っています。

入学以来、コロナウイルスとどのように向き合うかの活動でした。大半のPTA活動は縮小や中止をせざるを得ない状況にあり、活動に参加出来なかった会員の皆様方には大変に申し訳なく、また校長先生をはじめ教職員の先生方にはご苦労をお掛け致しました。

しかしながら「子ども達の為に」を基本に、できない理由を考える前に、できるにはどうしたらいいのかを考える事が、大人の私たちが子ども達に見せる姿勢ではないかと感じています。この状況を二つの教訓として、前を向いて今後のPTA活動の糧にしていきたいと思えます。この度は、大変にありがとうございました。



▲3学年PTA



▲ひと声かけ運動



▲母親委員会



▲母親委員会

岩手県高P連母親委員会は、9月22日にサンセール盛岡にて、第22回母親会員交流会を開催しました。新型コロナウイルス感染症への対策としては、会場内の換気や手指の消毒を入念に実施。座席の間隔も空けた上で、県内39校から約80名が参加し、講演および活動事例の発表を行いました。

開会式では、岩手県高P連の大柏良会長より「コロナ禍であっても感染症対策を講じた上で集まることのできるのは、母親委員会ならではの素晴らしい取り組みだと思います」と、挨拶がありました。

また、玉内昭子母親委員長は講演会について触れ、「子どもとの関わりに悩むことも多いですが、今日のご講演で解決のためのヒントが見つかると思います、楽しみにしています」と語りました。

今年度の講演会は、「家庭内のコミュニケーションに活かすコーチング」と題して、Coaching Office代表の平野順子氏が登壇。コーチングの本質や、人がやる

気を出す上で必要な自己肯定感などについて説明した後、参加者全員が2人1組のペアになって簡単なワークを行いました。ワークの内容は、それぞれが話し手と聞き手になり、「最近困っていること」について2分間のトークを行うというもの。コーチングの原型を体験するという狙いがあるため、「聞き手は話し手に対して質問はして良いが、自分の話はしない」というルールが設けられました。

参加者は互いに自己紹介をした上で、対話をスタート。どのペアも話に詰まることなく、時折、笑顔を見せながらもじっくりと相手の話に耳を傾けている様子で



▲講師：平野順子さん（Coaching Office代表）



▲講演会の様子

つなげようみんなの心 未来を担う子どもたちの幸せを願い 今できること

第22回 母親会員交流会

などの手を止めて、顔を見ることを意識してほしい、と伝えた上で「何よりも子どもの可能性を信じることをベースとし、日々のコミュニケーションを取り続けてほしいです」と語りました。

交流会の後半では、花泉高校の佐藤由枝母親委員長より活動事例の発表が行われました。

コロナ禍での活動は制限される部分が多かったものの、昨年度は参加者を限定するなどして声掛け運動や環境整備を実施。今年度は環境整備を予定していた日に大雨警報が発令されたため、やむなく中止としましたが、後日インターアクトクラブの生徒たちに手伝ってもらいながらプラントづくりを行いました。

今年度のプラントづくりは母親会員の中でアイデアを出し合い、花苗の種類を増やしたり、収穫して調理実習などに活用できるハーブを取り入れたりしました。また、廃プラスチックが世界的な問題になっていることを考慮し、今後は生分解性のプラントを使用することを検討。佐藤母親委員長は、今できることをさらに工夫し改善することによって、保護者や生徒、学校にとつて役立つ活動にしていきたいと語りました。

閉会式では岩手県高P連大柏会長より、花泉高校の活動事例を踏まえ「その学校にしかできない取り組みは、学校としての自己肯定感につながると思えます。そうした取り組みをお互いに共有できる場として、また、共有することで皆さんの自信につながる場として、今後も母親委員会としての活動を続けてほしいと思います」と語り、今年度の母親会員交流会は閉会しました。

岩手県学生会館入寮生募集

～初めての東京生活を
支える安心の寮生活～



[会館施設概要]

- 所在地：〒171-0043 東京都豊島区要町2-5-5
JR池袋駅まで徒歩15分、東京メトロ要町駅徒歩5分
- 資格：岩手県出身者で大学院、大学、短期大学、専門学校等に通学する人
- 寮費：月額80,000円（朝夕2食）、入寮時費用10万円
- 室内：洋室13.5㎡（全室個室）
- 設備：机、本棚、ベッド、クローゼット、洗面化粧台、冷暖房器等

[申し込み・問い合わせ]

公益財団法人 岩手県学生援護会（岩手県学生会館内）
TEL:03-3972-4783
※募集要項、申込書類はホームページから
<http://www.gakuseikaikan-iwate.or.jp/>



▲佐藤由枝さん（花泉高校母親委員）



▲玉内昭子母親委員長

第52回 事務局長研修会

令和4年11月11日(金)
会場/サンセール盛岡

第52回事務局長研修会は、岩手県内の62校が参加して開催されました。岩手県高P連大柏会長は仕事の都合で出席が叶わず、事務局長が挨拶を代読。来賓には、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課総括課長の久慈孝氏を招きました。



▲大柏会長挨拶
(代読:事務局長)



▲来賓 久慈 孝氏
(生涯学習文化財課総括課長)

岡大会については、中間決算報告とともに完成したばかりの報告書を配布。他県の学校を含め、当日参加した方々から「素晴らしい大会だ」と好評だったことが伝えられました。

休憩を挟んで行われた情報交換では、学校運営協議会の実践例やPTA会報のデジタル化について、事前アンケートによる議題提案がありました。その場で事例発表を行うのは難しいため、挙手により状況を確認。それ以外にもPTA会費の徴収や、PTA役員との会議や研修を勤務時間内に終わらせることなどの話題もあり、参加者

からの意見や質問を交えながら情報の共有に努めました。また、これまでさまざまな場面で議題に上がったきた母親委員会については、先日行ったアンケートの集計結果を提示。来年度の総会における最終決定に向けて各校で議論を重ねてもらうとともに、アンケートで意見を集約していく方針が示されました。終盤は地区ごとに分かれて今後の打合せを行い、終了した所から順次解散となりました。



▲情報交換



▲地区ごとの打合せ



▲登校時一声運動・マナーアップ運動



▲工業祭(母親委員模擬店)



▲まいど食堂(平成30年度)

今後も、宮古商工高校を宜しく願います。

全国的に少子化が進み、高校再編は今後も進むことでしょう。特色を活かし、机上の学問で終わる事なく、学びを深めて、社会に出た際の一助になれるよう、保護者も、教職員と手を携え、円滑な学校運営に協力頂きたいと思えます。

がんばる岩手

第13回

岩手県立宮古商工高等学校 PTA 会長 平井 亮吉



学校へ行こう

三年前、県内の校舎制専門高校が船出しました。私の子どもが宮古商工高校にお世話になりますが、世界規模のコロナ禍により、通常行事も、交流事業も行うことが出来ず、部活動さえ制限され、在校生、教職員、保護者も耐え忍ぶしかない現状を憂いておりましたが、開催を危ぶまれながらも感染対策を行い、開工祭開催に漕ぎ着けるよう奮闘しました。

母親委員会を中心とした模擬店の出店に際しては、規模は例年通りとはいかないまでも、子ども達の為、コロナ過でどう進めていけば良いのか模索の連続ではありまし



▲体育祭ドリンクサービス
(平成30年度)

たが、多くのアイデアや協力を頂きました。

また、これまでのPTA活動を振り返ってみますと(コロナ過で未実施もありますが)、商工祭での「まいど食堂」による生徒への食事提供。体育祭でのドリンクサービス。「登校時一声運動・マナーアップ運動」で挨拶の励行を行うなど本校PTAの協力体制は素晴らしいものがあります。

生徒も宮古市の老舗菓子店「西野屋」さん、岩手アカモク生産協同組合さんと共同開発した海藻アカモクを使用したカップケーキ「オブスタクラン」を生み出すなど地域に根ざした活動も盛んです。是非、宮古にお越しの際は、「西野屋」さんにてお買い求めください。

岩手県高P連委員会活動報告



健全育成委員長
高宮 文昭
(葛巻高等学校)

親として親しむ

今年度委員長を務めさせていただき、葛巻高校PTA会長の高宮文昭です。よろしくお願いたします。

さて、健全育成委員会と聞きますと、ハードルが高そうな活動をイメージして、おりましたが、まずはできることから始めようと、今年度も「登校時一声運動・マナーアップ運動」を健全育成委員会の取り組みの中心として推進してまいります。まだまだコロナが猛威を振るう中、登下校時の声掛けには抵抗があるPTAの方も多いことと思われ

数年前にのぼりを作成し各高校へ配布しております。声は出さずとも、のぼりや皆様の子どもを見守る視線はきつと子どもたちに伝わることでしよう。

また、仕事をしながらの活動は負担がありますが、登校時一声運動後に学校訪問や行事を組み合わせた方が休みやすい方もいると思います。活動を見直して多くのPTAに参加していただきたいです。ぜひ活動へのご協力をお願いいたします。

最後になりますが、子どもの大学進学や就職などのライフプランを考えますと、子どもと一緒に過ごす時間はあとのくらいあります。親という字は「親しむ」と使われます。日々の生活の中で子どもたちと親しむことが、健全育成につながると信じております。コロナでこれまでと同じ活動は難しいですが、日々の生活、さらにはPTA活動を通してながら親しい関係をつくってまいります。



進路対策委員長
村上 智加子
(盛岡第二高等学校)

進路対策委員会

進路対策委員会は6月7日に青森市で開催された東北地区の総会・委員会を受け、6月22日にサンセーブル盛岡にて第1回委員会を開催しました。成年年齢も選挙権年齢も18歳に引き下げられ、高校3年生は法律上は「大人」になっています。しかし何十年も前のことにはなりますが、自分自身の18歳を（ほんやりとですが）思い出してみても、将来のことを明確に考えていたようには思えません。様々な情報に囲まれて生活している今の子どもたちとは比べようもないのです。大人になつていくなるといって、自立した大人になるには、まだまだ周囲の理解あるサポートと時間が必要ではないかと感じています。

11月11日には、秋田県で東北地区の進路対策委員会もあり、国際教養大学の見学、その後会場を移した講演がありました。大学見学では、初めは学生さんから、サークル活動や海外留学体験の様子を紹介頂き、その後は学内の見学となりました。圧巻は国際教養大学の代名詞とも言える中嶋（初代中嶋嶺雄）学長 記念図書館です。秋田杉がふんだんに使われた図書館は、24時間365日開館しているそうです。「ほとんどここに住んでいる。ほとんどの学生さんもゆかりもなかったそうです。熱い思いで秋田愛を盛岡生まれ（高校は仙台）。「祖父母の家もあり、盛岡は大好きな場所です。」ということでした。元気に頑張れ！

その後は、秋田ノーザンハビネッツの水野勇気代表取締役の「バスケットボールで秋田を元気に」と題した講演がありました。国際教養大学出身の水野さんは「秋田にプロバスケットチームを作る」という不可能と言われた挑戦を続け、「県民に必要とされるバスケットボールチーム作り」に邁進しておられます。東京出身で大学に来るまでは秋田県には縁もゆかりもなかったそうですが、熱い思いで秋田愛を語ります。大学での体験が人生の方向を決定したということでした。

子どもたちは大きな希望を持ち、自分自身の将来について真剣に考えます。保護者として子どもたちの希望を叶えるためには何が出来るのか、保護者も学んではいかなければならないと感じます。多様な進路希望に資する情報提供ができるように、進路対策委員会も皆さんとともに活動を進めていきます。今後とも宜しくお願いします。



調査広報委員長
太田 宣承
(黒沢尻北高等学校)

広く報じる意義を

毎年、当委員会主導の県高P連広報紙コンクールに多くのご尽力、ありがとうございます。

沢山の広報紙を前に、様々な取組みや特色を感じつつ、それを審査するという役目はあまりにも難題であります。それでもお役目でありますから、何を基準に審査したら良いのか？悩みどころです。

そもそも広報は何のためにあるのでしょうか。コロナ禍3年目を過ごし、PTA 不要論まで飛び交うご時世において、存在意義を示

す貴重な場の一つとして、この広報の役割があるのだと私は信じています。

私は介護の世界で仕事をさせて頂いておりますが、毎月広報紙を発行して多くの方に押しつけがましくもお届けしています。それは、世間が作りだした偏見「介護の旧3K（きつい、危険、汚い）」を払拭したい思いが根本にあつて、介護の世界は「人の人生の傍でお供する役目」であり、「喜怒哀楽の人間模様の中で人間が磨かれていく場所」だとしても多くの方に知って頂きたい。その気持ちで続けて参りました。

よって「広く報じる意義」は、自分や自分の考えを相手に伝えたい、知って欲しい。という純粹な心から始まるものであり、手に取って下さった方の中で新たに温められるものだと感じています。

PTA 活動・思いが詰まった作品こそが評価されていくよう尽力して参ります。広報活動、共に盛り上げて参りましょう。



母親委員長
玉内 昭子
(盛岡南高等学校)

社会の役に立つ人間に

日頃より、母親委員会の活動にご協力を賜り、感謝申し上げます。

我が家も2人の子育てが終盤になり、長女の保育園に始まったPTAなどの活動も、残すところあと半年となくなってしまいました。

ところで、皆さんは「親の役割は？」と聞かれたら答えられますか？子育ても終盤になった最近のこと、「親の役割は、喜んで社会の役に立つ子どもに育てること」と教えてもらいました。

さてさてうちの子どもたちは、社会の役に立つ人間に育っているでしょうか。社会の役に立つ自立した大人に育てるためには、家庭内での親との関わりが何より重要だと思えます。

9月22日（木）、今年も人数を制限しての縮小開催となりましたが、第22回母親会員交流会を開催することができました。その中で、平野順子先生より「家庭内のコミュニケーションを活かすコーチング」と題して講演を頂きました。本来どの人も、向上心や誰かの役に立ちたいという心を持っていて、「答えはその人自身の中にある」ものです。それを引き出し、社会に送り出すのが私たち「親」の役割だと思えます。子どもたちには、親に言われた道ではなく、自分自身で答えを見つけた道を力強く歩んでほしい、と願っています。

おらほのPTA

ずいしょいしゅ
随处為主

岩手県立盛岡第三高等学校
PTA会長

成島 英史



盛岡三高は、いわゆる団塊の世代の就学人口増加を受け昭和38年に創立され、今年60周年を迎えました。現在は各学年7クラス856名が在籍。少子化が進む中で規模をキープできているのは、先生方のご指導と生徒たちの努力による充実した進学実績と活発な部活動、そして明るく爽やかな行動が中学生と保護者の心を掴んでいるからではないかと思えます。さて、PTAはここ数年、行事は軒並み中止・リモートでした。そのような中、今年7月に行われた東北高P連盛岡大会は、予想を超える多くの方が積極的に参加されました。せっかく入学したのになかなか学校との繋がりが持てない、との思いもあるのではないのでしょうか。先日は三高祭に3年生の保護者を受け入れ、また3年生PTAと進路講演会を開催するなど、少しずつ保護者と学校の繋がりが復活してきたと感じます。



▲3学年PTA・進路講演会



▲東北高P連 盛岡大会

活動や交友関係などを工夫しながら生き生きと楽しんでいるようです。本校の校訓は「随处為主」。これは「どんな場合にも主体性を持って臨みなさい。そのことがいかなる変化にも対応できる生き方なのです。」という教えです。生徒たちはまさにこれを体現しており、頼もしく・誇らしく感じます。PTAはその主体的な活動をそとフォロワーしてあげられるような存在でありたいと思えます。

「念願の新校舎 ～団結そして前進～」

岩手県立釜石祥雲支援学校
PTA会長

佐々木 砂智子



本校は病弱・知的・肢体不自由の複数障がいを対象とした特別支援学校で、令和7年には創立50周年を迎えます。今年の7月には、念願の新校舎が完成し、子どもたちは夏休み明けから新しい校舎でのびのびと元気に学んでいます。本校のPTA活動は、事業部・研修部・広報部で構成されています。コロナ禍で残念ながら活動の縮小がやむを得ない状況ですが、事業部では中止となったPTAバザーに代わり、お菓子の袋詰めを活動として実施し学習発表会で子どもたちに配付しました。研修部では、飲食を伴わない交流の場を考え、近隣の就労施設の見学を実施しました。子どもの将来を考える上で、保護者の関心や参加率も高く、今後恒例行事にしていきたいと思えます。広報部では、PTA会報「五葉松」を年二回発行しています。その中で保護者アンケートの特集を組み、我が子自慢やおもしろエピソード

本校は病弱・知的・肢体不自由の複数障がいを対象とした特別支援学校で、令和7年には創立50周年を迎えます。今年の7月には、念願の新校舎が完成し、子どもたちは夏休み明けから新しい校舎でのびのびと元気に学んでいます。本校のPTA活動は、事業部・研修部・広報部で構成されています。コロナ禍で残念ながら活動の縮小がやむを得ない状況ですが、事業部では中止となったPTAバザーに代わり、お菓子の袋詰めを活動として実施し学習発表会で子どもたちに配付しました。研修部では、飲食を伴わない交流の場を考え、近隣の就労施設の見学を実施しました。子どもの将来を考える上で、保護者の関心や参加率も高く、今後恒例行事にしていきたいと思えます。広報部では、PTA会報「五葉松」を年二回発行しています。その中で保護者アンケートの特集を組み、我が子自慢やおもしろエピソード



▲新校舎



▲事業部 菓子袋詰め作業



▲研修部 事業所見学

等を掲載し、このコロナ禍において貴重な間接交流と情報交換の場になっています。従来であれば、休日や夕方開催の行事もあり、例年大盛況なのですが、今は一日も早いコロナの収束を願いながら、新たにできることを模索する時と捉え、皆で団結し前進していきたいと思えます。

編集後記

日頃より会員の皆様には、県高P連の広報活動にご理解ご協力をいただきありがとうございます。さて本号では、3年ぶりの開催となった第71回東北地区高P連盛岡大会の特集をお届けしました。

コロナ禍におけるPTA活動も3年目となり、会員の皆様の中には、思い描いたような活動ができないうちに最後の1年を迎えてしまったという方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな中、盛大に盛岡大会を開催し、「新しい生活様式における持続可能なPTA活動とは」を研究テーマに、日頃の思いを共有し、学びを深める機会を得たことは、誠に喜ばしいことでした。大会開催にあたり企画から運営までご尽力された実行委員の皆様へ感謝申し上げます。また各種表彰を受けた皆様、本当におめでたうございました。

また本大会テーマである「えん」に込めよう、援けよう、団まろう！子どもたちの未来のために「えん」にちなんだアトラクションとして、盛岡地区の学校紹介や県内の応援団の紹介が行われ、会場を大いに盛り上げてくれました。

我々調査広報委員会も、子どもたちの応援団として、そして会員の皆様一人ひとりをつなぐ「えん」となるような誌面作りを尽力してまいります。今後ともよろしくお願いたします。

(調査広報委員長・太田宣承)

〈編集委員〉調査広報委員会

- 委員長 太田 宣承(黒沢尻北高校)
- 副委員長 川村 敦(花巻農業高校)
- 委員 山崎 弘之(紫波総合高校)
- 小澤 進哉(水沢商業高校)
- 今野 義也(大船渡高校)
- 須藤 行真(黒沢尻北高校)
- 佐藤 尚(県高P連)
- 木村 智子(県高P連)

◇事務局

- 須藤 行真(黒沢尻北高校)
- 佐藤 尚(県高P連)
- 木村 智子(県高P連)